

○高齢者用肺炎球菌感染症予防接種をご希望の方へ（必ずお読みください）

高齢者用肺炎球菌感染症予防接種説明書

1. 肺炎球菌について

高齢者の肺炎球菌による肺炎の重篤化を予防するための予防接種です。

2. ワクチンについて

ワクチンは、23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン（以下「23価肺炎球菌ワクチン」という。）を使用します。

このワクチンは、肺炎球菌の93種類ある型の中で、23種類の肺炎球菌の型に免疫をつけることができます。

このワクチンの再接種に関しては、**過去5年以内に接種されたことのある方が再接種した場合、注射部位の痛み、発赤、しこり等の副反応が、初回接種よりも頻度が高く、程度が強くなる**との報告があります。

過去に、このワクチンを接種したかどうか不明な場合は、このようなリスクを十分理解したうえで、接種していただく必要があります。

副反応としては、接種部位の痛み、熱感、しこり、発赤が5%以上の割合で認められます。

また、筋肉痛、倦怠感、違和感、悪寒、頭痛、発熱もみられることがあります。いずれも軽度で2～3日で消失します。

3. 予防接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱のある方（37.5度以上）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ ワクチンの接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーショック※を起こしたことのある方

※ アナフィラキシーショックとは、接種後30分以内に顔が腫れる、全身にじんましんが出るなどのひどいアレルギー反応のこと。

- ④ その他、医師が不適当な状態と判断した方

※ 過去に、このワクチン（23価肺炎球菌ワクチン）を接種したことがある方は定期接種の対象ではありません。

4. 予防接種を受ける際、注意しなくてはならない方

- ① 基礎疾患（心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害など）のある方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱の見られた方および全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- ③ けいれんの既往のある方
- ④ このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方
- ⑤ 過去に免疫不全の診断がなされている方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑥ 過去にこのワクチンを接種したかどうか不明な方

（過去5年以内にこのワクチンを再度接種された場合、注射部位の痛み、発赤、しこり等の副反応が、初回接種よりも頻度が高く、程度が強くなる

5. 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種の副反応により、医療機関で治療を必要としたり、生活に支障が出るような健康被害が生じたりした場合には、予防接種法に基づき救済を受けることができます。

*救済の適用を受けるにあたっては、健康被害が、本当に予防接種によるものなのか因果関係（接種前後の他の感染症や要因等）を調査したのち、予防接種によるものと認定される必要があります。

*給付申請の必要が生じた場合は、感染症・医務薬務課までお問い合わせください。

6. 新型コロナワクチンとの接種間隔について

このワクチンと新型コロナワクチンは同時に接種できません。この2つのワクチンは互いに、片方のワクチンを受けてから2週間の間隔をおいてください。

7. 接種後の注意事項

- ① 接種後30分間は、急な副反応が起こることがありますので、医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② 副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、接種した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日は、激しい運動や大量の飲酒（それ自体により体調の変化を来す恐れがあるため）は避けましょう。
- ⑤ 予防接種を受けた部位が赤くなったり、痛んだり、軽い発熱が起きることがあります。
※ 高熱、おう吐、けいれん、運動障害、その他の異常な症状があるときは、すみやかに、医師の診察を受けてください。